

第18回 規制改革推進会議終了後記者会見 議事録

1. 日時 : 令和5年12月26日(火) 17:00~17:10
2. 場所 : 合同庁舎8号館1階S101会見室
3. 出席者 :
(委員) 富田哲郎議長
(政府) 河野大臣

○事務局 それでは、第18回規制改革推進会議後会見を行います。最初に、大臣からお願いいたします。

○河野大臣 本日の規制改革推進会議で、議長の司会の下、中間答申の取りまとめをいただきました。

岸田総理から、スタートに当たって、利用者起点、利用者目線で様々な改革を実現するよという御指示がございましたが、守るべきは規制ではなく、国民の豊かな生活を守る。そういう方針の下、活発な御議論を今日までいただいてまいりました。

また、総理からは、年明けも引き続き、改革を加速するよという御指示もいただきましたので、順次、年明けから取りまとめができるものについては、引き続き取りまとめをしていきたいと思っております。

どちらかという前例にこだわる霞が関の風習もありますが、これだけ人口減少・高齢化、あるいは人手不足が進み、これからもそれが進んでいくことが容易に予測できる。こういう状況の中で、前例にこだわっていたら、多分、いろいろなものが悪くなる、これまでと同じことは続けられないという大前提の下で、より便利な、より豊かな社会をつくらなければいけないと思っておりますので、これからもいろいろなものに横串を通しながら改革を進めてまいりたいと思っております。

議長、議長代理に大変リーダーシップを発揮していただいて、また、ワーキンググループの座長にも頑張ってください、こうした中間取りまとめ、中間答申になりましたので、改めて議長をはじめ、皆様に感謝を申し上げて、来年も引き続き頑張りたいと思っております。

私からは以上でございますので、あとは、議長、お願いします。

○事務局 議長、お願いいたします。

○富田議長 議長を仰せつかっている、富田でございます。よろしくをお願いいたします。

本日、岸田総理、林官房長官、河野大臣に御出席いただき、これまで規制改革推進会議の中で、ワーキンググループを中心に、活発な議論をしてまいりました。

そうした議論の内容について、中間答申として取りまとめを行いました。

今、大臣からもお話がありましたが、今、日本で最大の課題は、生産年齢人口の減少、その中で、具体的には移動の足が足りない、あるいは医療とか介護といった、いわゆるエッセ

ンシャルワーカーの人材が足りないという非常に深刻な社会課題が存在していることだと思います。

こういった社会課題を具体的にどうやって解決して乗り越えていくのか、そして、変化の中から新しい力を生み出す、そういう社会変革をつくり出していかなければいけないと思います。

今日まとめました中間答申の中では、まず、都市部を含めた移動難民の解消に向けて、タクシー規制の緩和、それから、地域の非営利主体による、いわゆる自家用有償運送の拡大、それから、タクシー会社による自家用車とかドライバーの活用といった取組のほかに、国民の利便性向上のための授業料などの公のお金、公金のデジタル納付、あるいはドローンを具体的に事業化していくこと、オンラインの診療、オンラインでの教育、働き方改革としての兼業や副業の推進といった規制改革事項の取りまとめを行ったところであります。

これからこれらの取組を深化させていかなければいけないと思いますし、引き続き先送りできない課題に正面から取り組む姿勢で、来年の年央の答申に向けて議論を推進していきたい、規制制度改革を推進していきたいと思います。

特に、先ほど申し上げました自家用車とかドライバーの活用に関する新しい制度の検討など、必要な事項については、答申を待たずに、議論をさらに深度化させて、そうしたことに私としても貢献してまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○事務局 それでは、質疑応答に移りますが、次の用務の関係で、17時15分めどに終了したいと思います。その後、事務的なお話は、私どもが受けますので、よろしくお願ひします。では、まず、そちら。

○記者 河野大臣にお伺ひします。今、議長のお話の中で、ライドシェアなど、必要なものは答申を待たずに進めるというお話がありました。大臣としても、具体的にライドシェアについて、来年6月を待たずに進めていくというお考えでしょうか。よろしくお願ひします。

○河野大臣 そもそもライドシェアにかかわらず、一々答申まで待っていただけませんので、できるものはどんどんやらなくてはいかぬと思っています。

○記者 ありがとうございます。

○事務局 その前の方。

○記者 大臣にお伺ひします。自爆営業についてお伺ひします。自爆営業については、これまでもハラスメント認定などの議論がなかなか行われてこなかった経緯もあります。

昨今問題になっている自爆営業に対する大臣のお考えと、今回、検討を開始するに当たって、自爆営業に対してどのような対応があるべきかということをお聞かせください。

○河野大臣 会議の中で議論が始められると思いますので、しっかりとまとめていただきたいと思っています。

○記者 ありがとうございます。

○事務局 ほかはいかがでしょうか。

○記者 大臣にお伺ひします。

交通分野の移動難民のところなのですが、今回の中間答申の内容は、ワーキンググループ

も出席されて、どう評価するか。

スピード感というところは、10月もそうですし、今日もすごく強調されていましたが、この答申を見る限り、ライドシェアという新しいものが生まれつつあるというよりは、今あるものを遅ればせながら手直ししているという印象を持っている人も正直いるかと思います。

ワーキンググループを拝見していると、委員の皆さんからも何度かやるせない空気を感じましたが、大臣自身はスピード感であったり、これからに向けて、どういう見解をお持ちでしょうか。

○河野大臣 これでは首長さんが自分の地域でどんどん進めることができますので、スピード感を持ってやっていただきたいと思います。

○記者 ありがとうございます。

○事務局 ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、あとは事務的にお答えいたしますので、大臣、議長、ありがとうございました。

○河野大臣 ありがとうございました。

○富田議長 どうもありがとうございました。